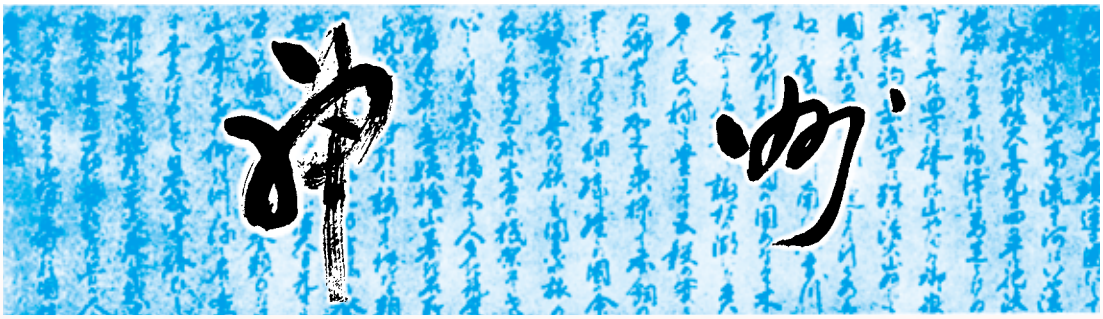

長野県神社庁報　第129号

令和元年８月１日発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
（長野市箱清水1-6-1　電話026-232-3355　FAX026-233-2720）

奉祝　天皇陛下　御即位

賢所に期日奉告の儀〔令和元年５月８日〕　写真提供：宮内庁

表紙について

「賢所に期日奉告の儀」

即位礼、大嘗祭の期日が正式に定められると、天皇陛下はみずから宮中の賢所でその旨を御奉告されます。

陛下は、令和元年五月八日に天皇にのみ使用される黄櫨染御袍の御束帯をお召しになられ、剣璽とともに進まれます。そして、賢所に続き、皇霊殿、神殿においても同様に御奉告をされました。

「賢所に期日奉告の儀」　写真提供：宮内庁

目次

目次・日誌抄　2
就任の御挨拶　4
新役員名簿　5
「皇室と信州」天皇陛下と上皇陛下　6
各地で盛大な奉祝行事　9
東海五県連合総会・神社庁連合大会　11
御造営フォトニュース　15
本庁表彰　16
神職四名総代二名・寄附者顕彰　18
新任神職の横顔　19
辞令　20
令和元年度神社庁歳入歳出予算書　23
令和元年度災害救助慰藉予算書　24
暑中見舞い　25
神社本庁と神社庁について　26
第六十五回新穀感謝祭のご案内　27

日誌抄

（平成三十年十二月～令和元年六月）

平成三十年　十二月

一日　月次祭
一日　神宮大麻頒布研修会
於北佐久支部諏訪神社

四～五日　第六十四回伊勢神宮新穀感謝祭
十一日　庁報編集委員会
十二日　「長野県神社庁」庁舎氏子会館建設委員会
十二日　理事支部長合同会議
十三～十四日　教養研修会於飯田市

平成三十一年　一月

十七日　支会長会
二日　月次祭
十六日　辞令伝達式

十八日　新年初会議
二三日　教化部合同委員会
二四～二五日　東海五県神社庁事務研修会
於岐阜県
二八日　県内東海五県評議員会
二八日　別表特別神社宮司会

二月

一日　月次祭
四～七日　長野県遺族会沖縄「信濃の塔」慰霊戦跡巡拝
奉仕更埴支部
六日　南信地区氏子総代研修会
於飯田鼎文化センター

八日　北信地区氏子総代研修会
於長野県神社庁

十三日　神政連長野県本部役員会
理事会
十八～十九日　教化部県外研修旅行

二六日　神宮大麻暦頒布委員会
二七～二八日　東海五県教化神政連合
同会議於岐阜都ホテル

三月

一日　月次祭
一日　神宮大麻暦頒修奉告祭

四日　神宮大宮司御招宴
五日　神宮大麻暦頒布終了奉告祭
五日　神宮大麻暦頒布奉事推進会議
於神宮会館
五～六日　神宮大麻都市頒布向上
計画研修会　於神宮会館
十一日　教・青少年対策推進委員会
十二日　第九十四回神社庁
定例協議員会
十三日　神社庁長懇話会
十三日　全国神社庁長懇談会
十四日　神社庁長会
二十日　事務担当者会於深志神社
二十日　神職総会於深志神社

二十二日　人事諮問委員会
二十二日　神政連長野県本部代議員会

二五日　庁報編集委員会
二五日　皇太子殿下御一家御奉迎
於長野駅
二六～二七日　第二十四回子供参宮旅行

二九日　皇太子殿下御一家
御奉送於長野駅

四月

一日　月次祭
八日　辞令伝達式

八日　理事会
九日　東海五県神社庁臨時合同
会議於熱田神宮会館
十日　天皇陛下御即位三十年
奉祝感謝の集い
於国立劇場大劇場
十八日　天皇皇后両陛下神宮に
親謁の儀にあたり御奉迎送
二三日　連合総会会場打合会

令和元年　五月

一日　月次祭
七日　東海五県神社庁評議員会
於ホテル翔峰
八日　第七十四回長野県神社庁・
長野県神社総代会連合大会
於キッセイ文化ホール

八日　東海五県神社庁連合総会
於キッセイ文化ホール
十四日　東海五県神政連臨時会議
於熱田神宮会館
十七日　庁舎氏子会館建設委員会
十七日　理事支部長合同会議
十七日　新旧歓送迎会於萬佳亭
二三日　本庁表彰式於明治記念館

二三～二五日　神社本庁定例評議員会
二五日　班幣式
二五日　神社庁長会
二七日　教化部役員会
二八～二九日　中信地区四支部
連絡協議会
於立山プリンスホテル

六月

一日　月次祭
六～七日　神宮参与同評議員会・
伊勢神宮崇敬会代議員会
於神宮会館
七日　教・青少年対策推進委員会
十日　庁報編集委員会
十一日　神政連国会議員懇談会
総会・合同懇談会
於ホテルニューオータニ
十二日　神政連中央委員会
於神社本庁
十二日　神政連本部長会・
事務局長連絡会
於神社本庁
十三～十四日　神社庁事務担当者会
於神社本庁
十四日　教・教化委員会
十四日　教・調査委員会
十六日　第八回神社検定
十七～二一日　東海地区中堅神職研修会
当番長野県
二六日　教化部合同委員会
二七日　神政連長野県本部役員会

就任の御挨拶

長野県神社庁　庁長　宇治橋　淳

令和の御代となりました。

平成の御代を長きに亘り、国と民の為に常に全身全霊、ご聖徳をくだされました上皇陛下上皇后陛下に心から感謝を申し上げ、ご健勝であらせられますようお祈り申し上げます。

五月一日ご践祚あそばされました今上陛下に於かれましては、今秋の「即位礼正殿の儀」「大嘗祭」など御即位に伴う一連の諸儀式が神道に基づき意義深く無事執行下されます様、衷心よりお祈り申し上げます。

長野県神社庁におきましても、十一月二十日に松本市民芸術館にて関係諸団体の協賛を得て「御即位奉祝大会」を開催する予定ですので一層のご協力を皆様にお願い申し上げます。

東海五県（三重・愛知・静岡・岐阜・長野）関連事業も今年度は長野県が当番県ですので、諸関連行事等につきましてもご支援をお願い申し上げます。

新庁舎・氏子会館の建設事業については庁報特別号にて詳しく記載しておりますのでご理解とご賛同の上何卒よろしくお願い申し上げます。

先人先輩達の足跡を引継ぎ、次世代への渡し役の責務を担い、就任の挨拶と致します。

就任の御挨拶

長野県神社総代会　会長　藤村　吉彦

常日頃、氏子総代の皆様におかれましては、神職とともに神社護持運営及び斯界発展の為に御尽力戴いておりますことに対しまして深甚なる敬意を表しますと共に、長野県神社総代会の諸事業に関しても格別の御理解御協力を頂いております事に厚く御礼申し上げます。

本年三月八日開催の、県神社総代会定例代議員会において、長野県神社総代会長再任の御推挙を頂きまして、改めて使命と責任を果たしていく次第であります。

畏くも天皇陛下におかせられましては、本年五月一日、御即位され新元号令和の時代が始まりました。令和の新時代における斯界のあるべき姿の為に、総代会新役員一同全力を尽くして参る所存ですので、御指導御協力をお願い申し上げます。

また、長野県神社庁新庁舎・氏子会館の建設については、愈々建設に向けての活動が活発化して参ります。県内総代各位におかれましても本建設事業を始め、神社庁及び総代会施策の推進に引き続き倍旧の御力添えを下さいますよう御願い申し上げ会長就任の御挨拶とさせて頂きます。

長野県神社庁

本年度より三年間の任期で選任。
平成三十一年四月一日～令和四年三月三十一日

庁　長　宇治橋　淳（松塩筑）
副庁長　滝　和人（木　曽）
　　武藤　美登（長　野）
理　事　遠藤　久芳（松塩筑）
　　清住　宗廣（上　小）
　　熊谷　睦男（飯　伊）
　　穂髙　光雄（南安曇）
　　齋藤　安彦（長　野）
　　佐々木宗昭（南佐久）
　　松村　健悟（上伊那）
　　宮坂　信廣（松塩筑）
　　傳田　幹彦（下高井）
　　藤村　吉彦（松塩筑）
　　宮澤　邦彦（飯　水）
　　竹内　直彦（大　北）
監　事　鷲尾　隆男（飯　水）
　　高橋　登（南佐久）
　　小平　文幸（諏訪郡）
顧　問　阿部　守一
　　行田増次郎
　　藤井　茂信
　　近藤　政彰
　　小平　弘起
　　湯澤　廣雄
本庁評議員　宇治橋　淳（松塩筑）
　　滝　和人（木　曽）
　　穂髙　光雄（南安曇）
　　藤村　吉彦（松塩筑）
　　堀内　潔人（更　級）
　　水野　邦樹（上水内）
　　宮川　清彦（上　小）
五県評議員

支部長

南佐久　渡邉　克彦
北佐久　曽根　徳隆
上　小　甲田　圭吾
諏　訪　有賀　寛典
上伊那　白鳥　俊明
飯　伊　平澤　靖史
木　曽　武居　哲也
松塩筑　林　邦匡
南安曇　山崎　佳宏
大　北　傘木　則興
更　級　五明　貴寿
更　埴　片岡　一仁
上高井　勝山　忠厚
下高井　前澤三喜夫
上水内　宮川　滋彦
飯　水　石川　彰
長　野　丸山　肇

長野県神社総代会

会　長　藤村　吉彦（松塩筑）
副会長　宮澤　邦彦（飯　水）
　　赤須　弘侑（上伊那）
　　水澤　健治（北佐久）
理　事　松澤　繁樹（上　小）
　　伊倉　順治（長　野）
　　山本　勝洋（大　北）
　　笠原　透（諏訪市）
　　滝　和人（木　曽）
　　武藤　美登（長　野）
　　富岡　晋一（上水内）
監　事　高橋　登（南佐久）
　　長田　正康（岡谷市）
顧　問　宇治橋　淳
　　行田増次郎
　　湯澤　廣雄

支会長

南佐久　高橋　登
北佐久　水澤　健治
上　小　松澤　繁樹
諏訪郡　小平　文幸
諏訪市　宮野　孝樹
岡谷市　濵　一平
茅野市　國枝　秀樹
上伊那　小松　俊夫
下伊那　藤本　典治
飯田市　宮下大三郎
　　木　曽　佐野　恭彰
　　松塩筑　藤村　吉彦
　　南安曇　松澤　求
　　大　北　山本　勝洋
　　更　級　田中　健
　　更　埴　保木野幸雄
　　須　高　北島袈裟則
　　中　高　西山平四郎
　　上水内　細尾　恭広
　　飯　水　宮澤　邦彦
　　長　野　伊倉　順治

教化部

教化部長　武藤　美登
祭祀担当　佐々木宗昭
教化担当　穂髙　光雄
調査担当　齋藤　安彦
青対担当　松村　健悟
祭祀委員長　宇治橋邦彦
教化委員長　羽田　浩一
調査委員長　若槻　徹也
青対委員長　豊城　憲和

神宮大麻暦頒布委員会

委員長　傳田　幹彦

庁報編集委員会

委員長　清住　宗廣

特集　皇室と信州

平成から令和　上皇陛下・今上陛下と信州

本年五月一日に上皇陛下より天津日嗣を受け継がれ御即位されました今上陛下、また同日をもちまして御位をお譲りになられました上皇陛下の両陛下におかせられましては、私達の信州との深いつながりが御座います。

この度の御譲位と御即位を迎えましたこの機会に、両陛下の懐かしいお写真とともに皇室と信州の関りを感じて頂ければと存じます。

浩宮さま、浅間山登山　皇太子さまとご一緒に（昭和41年）　写真提供：信濃毎日新聞社

告知

御即位奉祝記念長野県民大会（仮称）

本年の天皇皇后両陛下の御即位を長野県民一同にてお祝い申し上げ、ご皇室の愈々の弥栄をお祈り申し上げるべく、下記の期日にて奉祝記念大会を開催致しますので多くの皆様のご参集をお待ち致しております。

記

期　日　令和元年11月20日（水）
会　場　まつもと市民芸術館
日　程　第１部　式　　典【13時～13時50分】
　　第２部　記念講演【14時～15時】
　　講　　師　ケント・ギルバート氏
　　第３部　奉祝パレード【15時10分～】

詳細については改めて各支部を通じてご案内を致します。

御大典をお祝いしましょう

神社庁教化講師　山崎洋文

この度行われている御代替りの儀式は、よその国では真似のできない神話時代から続く日本の麗しき伝統です。私達にとっても一生のうちで何度も立ち会うことのできない貴重な時間です。

ご譲位、践祚の儀、即位の礼、大嘗祭と連綿と続く儀式の流れを御大典とよびます。四月三十日に現上皇陛下は退位礼正殿の儀を行ない、翌五月一日に新しい天皇陛下が皇位継承の儀式を受けられ、皇位を践まれます。これを践祚といいます。それらは、剣璽等を承継され、宮中三殿に報告し、総理大臣等三権の長や地方自治体の代表を御前に召されて即位を宣言されました。この後祝賀の宴がもうけられ、五月四日には一般参賀が行われ多くの国民が祝意を表しました。

一方五月一日より、一ヶ月前に発表された新元号「令和」が広く国民のあいだに滲みていきました。元号は、時に名前をつけ国民共通の時の認識の中

全国高校総体が長野市で開幕（昭和51年）
写真提供：信濃毎日新聞社

乗鞍岳の皇太子ご一家（昭和42年）
写真提供：信濃毎日新聞社

白馬村にてノルディック競技御観戦の両陛下（平成10年）
写真提供：大糸タイムス㈱

で日々を過ごすという世界のなかでも日本にしか残されていない文化です。

この一連の行事もかつてない十連休の中で、あっと言う間に過ぎてしまいました。これで、御代替りが終わったと思っている人も多いかと思いますが、実はこれからおこなわれる、大嘗祭こそ御代替りの御大典で重要な位置を占めるものなのです。

毎年天皇陛下は、自ら育てた稲を、十一月二十三日に、神様にお供えし、自らもいただきます。これを新嘗祭といいます。践祚した後、最初の新嘗祭を大嘗祭といい最も重要な儀式となります。天照大神から頂いた稲を人々に広め自らも食し、穀霊であり祖霊でもあるお米を玉体に取り入れる大事な儀式なのです。「高天原の斎庭の穂を、吾が児に任せまつるべし」に由来し、「豊葦原の千五百秋の瑞穂の国は、吾が子孫の王たるべき地なり。わたしの孫よ、言って治めなさい。さあいきなさい、あまつひつぎの隆えること、天壌ともに窮り無いように。」を実践するためなのです。

我々にとっても食事は、生きる源を取り入れる大事な日々の儀式です。特に、お米、お米を醸した酒、米をついた餅には神饌の上位でもあるように神

安曇野市にて第18回全国「みどりの愛護」のつどい式典に御臨席の両陛下（平成19年）　写真提供：大糸タイムス㈱

千曲市への行幸啓にてご到着後観衆にお応えの両陛下（平成29年）

ご静養のため長野駅に御到着の皇太子ご一家（平成26年）

様からいただいた特別な食べ物なのです。

大嘗祭のはじまりはまずお供えするお米を作る齋田の場所を決める点定の儀からはじまります。太古と同じ亀卜（亀の甲羅を焼いてそのひび割れを観て占う）で場所を定めます。東日本から悠紀田（ゆきでん）、西日本から主基田（すきでん）を定めます。今回は栃木県と京都府がその齋田に定められました。やがて稲穂が実ると抜穂の儀式があり、皇居に新設された大嘗宮で、悠紀殿（ゆきでん）の儀、主基殿（すきでん）の儀を深夜天皇みずからおこないます。今回の大嘗祭は十一月十四日卯の日から翌十五日の辰の日にかけ行われます。

さて、これら一連の行事において各神社ではなにを行えば良いのでしょうか。

天つ日嗣が無事行われることをご祈願するお祭りが、この四月各神社で行われたことと思いますが、祝意を表す日の丸の掲揚。積極的な提灯行列の参加などがあります。また御代替りを記念して、植樹や境内の整備、神社の調度品の新調、記念冊子の発行なども行ってください。

心に残る行事を企画することで、新しい御代がますます輝きに満ちたものになることでしょう。

各地で盛大な奉祝大会

天皇陛下御即位奉祝駒ヶ根大会

実行委員長　白鳥俊明

駒ヶ根市消防団を先頭に奉祝パレード

令和元年五月一日、駒ヶ根市の駅前通りに千名を超える市民が集い、天皇陛下御即位奉祝駒ヶ根大会が開催されました。

駒ヶ根の空に祝砲が鳴り響き、実行委員長の挨拶に続き駒ヶ根市消防団のラッパ隊によるファンファーレ、杉本駒ヶ根市長の挨拶を合図に奉祝パレードが駅前をスタート、旗手を務めたのは駒ヶ根市消防団北原団長、続いてラッパ隊、杉本市長、佐々木県議会議員、大御食神社・大宮五十鈴神社の総代会長、続いて市議会議員、次に実行委員、両社の総代、最後尾には一般市民も列に加わり、沿道では国旗の小旗を振る老若男女に駒ヶ根太鼓の演奏も花を添えてくれました。

朝から心配していた空模様、ラッパは多少の雨でも大丈夫、しかし太鼓は少しでも雨が降れば中止という中、無事に奉祝パレードが賑々しく執り行われました。パレードの終点「ぱとな」市民活動支援センターでは、獅子舞、伊那雅楽会による雅楽演奏、両社の舞姫十三名による「浦安の舞」が舞われ、最後に降り出した雨の中、佐々木県議の先導で聖寿の万歳を奉唱し奉祝大会は散会となりました。

四月一日に大御食神社の宮司を拝命し、大宮五十鈴神社と合同での奉祝行事を画策する中で、両社例祭で奉納する「浦安の舞」を駅前で両社一緒に舞い奉祝行事としたいと思ったのが発端でしたが、各所に話しをするとその都度ことは大きくなり、駅前は十二月まで整備工事中だから昨年駒ヶ根に本部を移したＪＯＣＡ（青年海外協力協会）を巻き込んで、その事務所のある「ぱとな」で舞を舞ったらどうか、商工会議所・ロータリークラブ・ライオンズ・青年会議所など各種団体に声を掛けて実行委員会組織を作ったらどうか、市消防団のラッパ隊が奉祝パレードを先導、駅前通りを車両通行止め許可申請し歩行者天国に、駒ヶ根太鼓の演奏などなど、最初はゲリラ的にでもと考えていた奉祝大会が、最終的には多くの市民を巻き込んで市を挙げての盛大な奉祝大会として挙行することが出来ました。

浦安の舞

御大典奉祝記念事業実施実例

庁報編集委員　片山　求

元号が「平成」から「令和」へと改元された五月一日より、私が宮司を務める神社に於いて、天皇陛下御即位・御大典記念事業が執り行われております。

今回は、約二百年振りの御譲位による御代替わりでありました。奉祝ムードの中で、祈年祭や例祭に合わせて植樹や改修に伴う遷座祭などの神事が執り行われました。

今後も、令和の記念事業や、来年度では御大典記念事業の実施が計画されております。

神社本庁も、各神社へ記念事業を奨励しておりますが、この佳節を機に、県内神社でも氏子の数に関わらず、無理が掛からぬように進めて頂きたいと思います。

実施日	記念事業	鎮座地	神社名	氏子数
五月一日	植樹	中野市栗林	白山姫神社	一三〇戸
一二日	植樹	長野市蟹沢手子塚	諏訪社	三二戸
二五日	鳥居社号額屋根修復	中野市草間	日和山神社	二五〇戸
七月一四日	社殿屋根瓦改修	山ノ内町寒沢	不盡野神社	一三〇戸
※令和以前に実施　現在継続中				
四月一三日	植樹	長野市蟹沢二ツ石	天神社	一六戸
四月二六日	社殿改修	中野市壁田	長丘神社	三三〇戸

五月一日　記念植樹
白山姫神社

五月十二日　記念植樹
諏訪社

7月14日　社殿屋根瓦改修
不盡野神社

5月25日　日和山神社
鳥居社 社号額屋根修復

天皇陛下御即位奉祝記念
東海五県神社庁連合総会開催さる

今上陛下御即位に伴い令和に改元されてより一週間後にあたる五月八日に松本市キッセイ文化ホールを会場として本年度の東海五県神社庁連合総会および同日開催として第七十四回長野県神社庁・長野県神社総代会連合大会が開催された。

午前中の連合大会では開会儀礼の後、功績表彰を行い、本年は神職六名、総代六名が神社界発展の多年の功績をもって表彰の栄に浴された。

また連合大会には、来賓として衆議院議員務台俊介氏並びに自民党長野県参議院選挙区第四支部長に就任された小松裕氏より御挨拶を頂戴し閉会となった。

午後よりは東海五県神社庁連合総会が約一八〇〇名の参加者を迎えて開催された。

連合総会では第一部の清興として、松本市にて設立され世界各国で子供たちに音楽教育活動を続けている才能教育研究会（スズキ・メソード）の先生方をお迎えして弦楽四重奏を御披露頂き、参加者一同にて信州と関わりの深い唱歌「ふるさと」を斉唱する場面を設けるなど長野県らしい清興となった。

続く記念講演は天皇陛下御即位奉祝記念として作家の竹田恒泰先生をお迎えし「令和の御代を迎えて―天皇陛下の祈りと祀り―」と題して講演をいただいた。

常に我々国民の平安を神々に祈り続けているという天皇陛下の御姿は今上陛下のみならず歴代の皇室に貫かれてきた美風であるとのお話しを受け、参加者も一層の神明奉仕に励まなければならないと決意させる内容であった。

スズキ・メソードの先生方による弦楽四重奏

続く第二部では開会儀礼の後、各県から提出された議案について審議の後、本年の総会宣言として「御即位を奉祝し、ご皇室の弥栄を祈念し、愈々惟神の大道、ご神徳の宣揚と祭祀の振興に努める」旨を全会一致で採択し藤村総代会長の聖寿万歳をもって総会の全日程を終了した。

東海五県神社庁連合総会開催

心一つに祈りをこめて
～第二十四回子供参宮団報告～

青少年対策推進委員会　委員長　等々力　良勝

内宮御垣内参拝へ

本年三月二十六～二十七日の二日間にて第二十四回子供参宮団が実施され、バス四台で参加者一二九名(子供九九名)であった。

初日は天気が良く気温の低い早朝に各地を出発したバスは順調に進み恵那峡サービスエリアに集合し委員、引率神職、バス運転手・ガイドが結団式を行い二日間の行程と安全を確認した。

各号車では自己紹介を行い、ＤＶＤ「源郷」を鑑賞して委員が神宮について解説をした。また、柄杓を用いて手水作法、拝礼作法では御垣内での立礼や神楽殿での座礼での違いなど研修を行った。本年は践祚改元が行われることからその流れも伝えられた。

バスは予定通り内宮へ到着し、宇治橋前にて記念写真後神宮職員の宇治橋の説明から始まり案内により神楽殿にて御神楽を奉納した。その後緊張しながら御正宮御垣内参拝を行った。参拝後には授与所前で一旦解散し各自参拝者で賑わうおはらい町やおかげ横丁を散策して神宮会館へと入った。

夕食は食前食後感謝を声を揃え皆で行った。夕食後神宮職員西川泰正氏より講話を頂いた。最新映像で現在公開されている「天」「地」「祈り」を見てから話をされた。神宮の風景、祭典をドローンなどで撮影したものでナレーションや解説文は無く音のみで、映像からそれぞれが神宮を感じてもらうために制作されたもので、子供達も先程参拝を行った神宮について見入っていた。江戸時代のお伊勢参りには全国から国民の六人に一人が参拝した話、子供達に向けて「自分の国の事や歴史ついて話す事の出来ない人は外国では相手にされない。」と日本や神宮について学んで欲しいと話を頂いた。子供達には本日の神宮参拝や講話をもとに感想文を書いてもらった。

二日目は午前六時十分に会館ロビーに集合して内宮参拝へ向かった。朝の早い時間の参拝で有ったが、御正宮参拝では参宮団参加者一同の心が一つになり、乱れ無い

内宮早朝参拝へ

合った拍手の澄んだ音が晴天の森に響き渡った参拝が行われた。

朝食後神宮会館を出発して外宮参拝を行い、ナガシマスパーランドへと向かった。例年名古屋方面に向かうと四日市付近で渋滞に巻き込まれていたが、本年三月中旬に東名阪に別ルートが開通したため渋滞も無く予定通りに入園して集合時間まで楽しんでいた。

帰路の車中は子供達それぞれの感想を聞き「御神楽を見られて良かった」「楽しかった」「伝統、歴史を知れた」など今後の参考となる話を聞いた。

今回の子供参宮団も天候に恵まれ委員や引率神職の皆様のご協力により無事終えることが出来た。

私も二期六年間の長きにわたり青少年対策推進委員長を務めさせて頂きましたが、その間子供参宮団開催には各支部・委員や引率神職の皆様方にご協力を頂き大変お世話になりましたこと紙面をお借りして感謝御礼申し上げます。この子供参宮団は県内全支部からの参加を目指しておりましたが、任期中は叶いませんでした。これも県の面積の広さ、意識の違いなど原因は多々有ると考えられますが、今後も二十四回を数え先輩方が苦労して始められ続けてきた次世代を担う子供を対象とし教化を目的とする全国的にも珍しい参宮団を継続して欲しいと思います。

第24回子供参宮団参加者一同

1号車

2号車

3号車

4号車

伊勢の神宮を参拝して感じた事など、参加した生徒の方に作文にしてもらいました。

伊勢神宮で学んだこと

中野市　小学六年生

ぼくは、このお参りに来るのは今回で三回目でした。一回目と二回目で、大体のことは分かっていたので、今日は一回目や二回目には無かった楽しみ方や、ものの見方がありました。

ぼくが、一番楽しかったのは「手水」です。それは、左手、右手、口、左手、柄杓の持ち手、と簡単に素早くできたからです。

一回目は隣の人の様子を見ながらしていたのですが、三回目に自分でもあんなにすらすらできたのは、ちょっとびっくりでしたが嬉しかったです。自分の成長を身にしみて感じられたことで自分も学べているのだと思いました。

鳥居や門の前で一礼するのも自分から忘れずにできてよかったのですが、舞を見る場所であんなに長い時間正座をしたのは三回目で二回経験していたけど、足がしびれてしまったのでくずしたらまたすごくしびれてきて痛かったです。

神主さんのお話しでは、天照大御神様の食べ物は、すべて自給自足で、すごいと思いました。それに毎日、毎日、一日も欠かさずに食事をそなえているお祭りは、何よりもすごいことだと思います。

今までの経験を中学校に入っても、お参りして神様たちへの日頃の感謝を忘れずに、これからも頑張っていきたいです。

伊勢の神宮の旅の感想

長和町　中学二年生

私達は長和町からバスで約六時間かけて、この三重県に行きました。一日目に行く伊勢の神宮はニュースでしか聞いたことがなかったため、もちろんくわしくは知りませんでした。しかしバスの中で歴史やビデオを見たりしたので少しだけ、どの様なところなのか分かってきました。着いたときは暑くてびっくりしました。長野県は東日本に入ると聞いたことがありましたが近畿に行くのは今日が初めてだったので、西日本の温度の変化を肌で感じることが出来ました。たくさんの人が訪れていたので本当に有名なのだと思いました。

伊勢の神宮の旅で特に印象的だったのが巫女さんの舞です。私達も一応経験者ではありますが、ふりを覚えてもどうしても皆と合わせることが出来ませんでした。それに扇の向きがまがってしまうこともよくありました。やっぱり毎日舞をしている人とは比べものになりません。巫女さんの舞は何のゆがみもなく、皆が揃っていて、とても美しかったです。また見ていて落ち着きました。

バスの中で沢山勉強する事が出来たので参道を歩いていてもとても面白かったです。手水の仕方やお参りの作法はこれからも役立つかもしれないので良い体験をさせてもらったと思います。

おかげ横丁散策では私は友達とお土産を買いました。広くてお店がたくさんあったので迷ってしまい、結局集合時間ギリギリでしたが友達と久しぶりにこのようなことが出来たので本当に楽しかったです。

私は今日、いろいろなことを学ぶことが出来ました。これからも感謝の心を今よりもっと大切にしていこうと思いました。「多くのもの、多くの人、多くの神様によって生かさせていただいている」という言葉を忘れないで、私はこれから感謝し助け合って過ごしていこうと思います。

編集委員会より　作文については一部ひらがなを漢字に直しております

御造営フォトニュース

○穂高神社（安曇野市穂高鎮座）

宮司　穂高光雄

鳥居改築工事

事業費　約二千七百万円

当社は上皇陛下御在位三十年・天皇陛下御即位奉祝記念事業として木造両部鳥居を改築した。以前の鳥居は明治二年の建立と伝えられ、根本の腐食等老朽化が進んでいた。三年前より材料を購入して準備を進め平成三十一年三月十八日解体起工地鎮祭を斎行して工事を始め、解体により墨書が見つかり文化元年（一八〇四）二一五年前の建築と判明し歴史の長さを知ることとなった。

新鳥居の傘木島木は直径二m、カナダ産檜一本物で作られ、親柱稚児柱貫は国産欅、その他控え貫等は国産檜で組み上げられた。なお沓石は旧鳥居の物を使用した。耐震耐候の対策として旧鳥居には基礎に鉄芯が入っていたが、今回はステンレス製に置き換え、雨等水に触れる木口また貫等の平面まで銅板で覆った。

社号額、親柱の継ぎには令和元年の文字が記された。

令和元年五月三日関係者八十名が参列のもと竣工奉告祭を拝殿にて斎行、その後鳥居前にて清祓いを行い関係者一般参拝者約二〇〇名が通り初めを行った。

○廣瀬神社（長野市広瀬鎮座）

宮司　越志徳門

本殿拝殿再建工事

事業費　約一千万円

廣瀬神社は、平成二十六年十一月二十二日の神城断層地震により本殿覆屋に落石が直撃倒壊し、本殿も大きな被害を受けた。御神体は発災直後に収容し、神楽殿に奉安し以後神事は神楽殿にて行われていた。

翌平成二十七年九月九日台風十八号による大雨の影響で、拝殿裏の土砂が崩落し、地震の影響で立ち入り禁止となっていた拝殿が押し流され全壊となった。

当該地区は現在、地滑り危険地区にしてされており、現在も周辺では地滑り防止工事が行われている。

当社は、大字広瀬地区の六集落の惣社としての歴史、役割を果たして来ており、社殿の復興に際しては、大字広瀬地区の住民が中心となり募財活動を行い、平成二十八年祈年祭に合わせ安全祈願祭を行い、平成三十年十月十四日竣工となった。

復興となった、社殿は、懸崖造りの本殿を解体、移築し其の覆屋として、拝殿を新たに建設した。

平成三十年十月に、遷座祭、竣工奉告祭は、長野県神社庁長野支部長をはじめ、地区の代表等多くのご来賓が参列の下、盛大に斎行された。

現在社殿の周辺は、県の地滑り防止工事が継続して行われており、工事が完了した暁には、社殿の瑞垣等の外構工事が行われることとなっている。

復興に際しては、長野県神社庁よりの義援金をはじめ、神社本庁より災害復興支援金など、地域の氏子にとって、物心両面で大変心強いご支援をいただいた事に衷心より御礼を申し上げます。

神社本庁表彰式　功労者を顕彰

神社本庁表彰式が五月二十二日池田厚子神社本庁総裁御臨席のもと、東京の明治記念館で行われた。

奉仕神社の施設経営に尽力した功労者、敬神の念が篤く多年神社の経営に協力した功労者として、神職・役員・総代等二百六十七名が晴れの栄に浴した。

本県では次の六名が栄誉を受けた。

平成三十年度功績表彰

表彰規程第三条第二号　表彰状

大宮熱田神社宮司　山田　充春

諏訪神社宮司　宮澤　正廣

皇足穂命神社諏訪社合殿宮司　宮下　俊樹

表彰規程第三条第三号　表彰状

大御食神社役員　赤須　弘侑

加保戸神社総代　宮澤　邦彦

表彰規程第三条第四号　表彰状

長野県神社庁参事　富岡　晋一

寄附者顕彰　平成三十年十二月～

神社本庁統理感謝状　三百万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
上小支部	上田招魂社	上田市	ルートインジャパン会長　永山勝利
上小支部	上田招魂社	上田市	竹下悦男
上小支部	上田招魂社	上田市	眞田神社
上小支部	上田招魂社	上田市	成澤　學

長野県神社庁長感謝状　三十五万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
上小支部	上田招魂社	上田市	山口和美・山口明子
上小支部	上田招魂社	上田市	生島足島神社
上小支部	上田招魂社	上田市	松井啓介
上小支部	上田招魂社	上田市	小笠原光三
上小支部	上田招魂社	上田市	城下昭一
上小支部	上田招魂社	上田市	青木高太・青木岸子

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔

山田英三　二十六歳
長野縣護國神社　権禰宜
松塩筑支部

本年一月一日をもって長野縣護國神社権禰宜を拝命致しました。平成二十七年に大学を卒業し、出身地の愛知県で神職をしておりましたが、この度御縁があり長野縣護國神社で奉仕させていただくこととなりました。

我が国や国民の為、尊い命を捧げられた御英霊に深く感謝をすると共に、神職としての責任の重さを強く自覚し、慰霊顕彰に務めて参る所存でございます。

未熟者ではございますが何卒御指導御鞭撻を賜ります様宜しく御願い申し上げます。

大塚宗延　四十二歳
神明宮　禰宜
松塩筑支部

此度、二十年間御奉仕致しました宗像大社（福岡県）より、父祖累代の会田神明宮へ禰宜として転任致しました。

帰郷したとはいへ、信州では高校卒業までの十八年間を過ごしたのみ、里楽をはじめ神葬祭等信州独自の祭り神事の進め方は理解できておりません。

非才浅学の身ではございますが、初心にたちかえり専心努力致す所存でございますので、県内各地の神職の皆様より、御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

小池高弘　二十六歳
穂高神社　権禰宜
南安曇支部

この度二年間の出仕期間を経て、平成三十一年四月一日付けで穂高神社権禰宜を拝命致しました。

ようやく神職としての第一歩を踏み出せたという思いと共に、神職としての責任を感じ、身が引き締まる思いであります。

まだまだ未熟者ではございますが、浄明正直の心を胸に刻み日々精進して参りたいと思いますので、御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

富岡亜璃紗　二十二歳
豊岡神社　禰宜
上水内支部

この度、豊岡神社の禰宜を拝命いたしました。

私の住んでいる地元の地域には女子神職がまだ一人しかおらず、私で二人目になります。また、女子神職がまだ地域に浸透しておらず知られていないというのも現状であります。

そんな地域で私が神職を奉仕していけるのかと不安もありますが、いち早く地元の地域の方々に寄り添い、親しんでもらえるようにしていきたいと思っております。

ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

牧野禎彦　二十六歳
諏訪神社　禰宜
飯伊支部

この度、諏訪神社の禰宜を拝命致しました。これからお務めする地元の神社は氏子さんを始め、地元の方々の努力に支えられている神社であります。神様をお祀りするという昔ながらの習慣が今も息づいている土地です。地元の方々のお役に立てるよう、私自身も神祀りに真摯に向き合っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

森井美樹　四十二歳
和田神社　禰宜
松塩筑支部

この度和田神社禰宜を拝命いたしました。

子供の頃から神職であった祖父の姿を見て育ちました。「令和」という言葉にこめられた、悠久の歴史、薫り高い文化、四季折々の美しい自然のある国柄を次の世代に引き継ぐことの大切さと神社界の果たす大きな役割を感じ、神明奉仕に励んでまいりたいと思います。

経験も浅く未熟ですが、地域の皆様に信頼される神職となれるよう努力を重ねてまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

平沢　徹　四十六歳
神明社　禰宜
飯伊支部

このたび神明社禰宜を拝命致しました平沢です。令和元年という節目に就任するということで、身の引き締まる思いです。

私は会社員として勤める傍ら、大阪國學院通信教育部での勉強を経て、神職資格を取得しました。

まだまだ実務経験が足りないと感じておりますので、継続して修練を重ね、祭祀に勤しむ所存です。

今後とも、御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

辞令

平成三十一年一月～

神社名	本兼職務	氏名	月日	支部名
昇級・神職身分一級				
深志神社	宮司	遠藤　久芳	三・一	松塩筑
昇級・神職身分二級上				
子檀嶺神社	宮司	宮原　満	三・十	上小
吉田神社	宮司	平澤　靖史	三・十	飯伊
御嶽神社	宮司	武居　哲也	三・十	木曽
小内神社	宮司	片山　昭	三・十	上高井
健御名方富命彦神別神社	宮司	高橋　勸	三・十	飯水
任命				
長野縣護國神社（愛知県　菅生天満宮より転任）	兼宮司	小平　和彦	一・二	南安曇
諏訪社	兼宮司	小平　和彦	一・二	南安曇
諏訪神社	兼宮司	小平　和彦	一・二	南安曇
伊勢社	兼宮司	安藤　武宏	一・二	上水内
祖霊社	兼宮司	樋口　和宏	二・二	上伊那
諏訪神社	兼宮司	唐沢　光忠	二・二	上伊那
八島神社	兼宮司	唐沢　光忠	二・二	上伊那
小河内神社	兼宮司	唐沢　光忠	二・二	上伊那
稲荷社	兼宮司	名取　人利	四・一	諏訪
神明宮（福岡県　宗像大社より転任）	本　禰宜	大塚　宗延	四・一	松塩筑
八幡社	兼宮司	等々力良勝	四・一	南安曇
八幡宮	兼宮司	等々力良勝	四・一	南安曇
神明社	兼宮司	等々力良勝	四・一	南安曇
飯綱社	兼宮司	等々力良勝	四・一	南安曇
八幡宮	兼宮司	等々力良勝	四・一	南安曇
諏訪社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
伊勢社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
金箱神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
水内坐一元神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
諏訪神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
村山神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
富建千引神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
中俣神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
古野神社	兼宮司	長沼　誠一	四・一	長野
諏訪神社（島根県　出雲大社より転任）	本　禰宜	牧野　禎彦	五・二十六	飯伊
高杜神社	本　宮司	望月　俊仁	六・一	下高井
八幡宮	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
諏訪社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
郭社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
神明社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
水天宮	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
韓郷社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
机山社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
大宮諏訪社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
諏訪社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
大島神社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
宇治社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
鬼ヶ城社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
小野神社	兼宮司	忠平　昭止	六・二十	飯伊
諸原社	兼宮司	忠平　俊止	六・二十	飯伊
中尾社	兼宮司	忠平　俊止	六・二十	飯伊
神護原神社	兼宮司	下平　博	六・二十	飯伊
白諏神社	兼宮司	下平　博	六・二十	飯伊
諏訪神社	兼宮司	下平　博	六・二十	飯伊
諏訪神社	兼宮司	下平　博	六・二十	飯伊
長峯神社	兼宮司	下平　博	六・二十	飯伊
三郷神社	兼宮司	三浦　善文	六・二十	飯伊
昇任				
柵神社	宮司	安藤　武宏	一・一	上水内
荒神社	宮司	樋口　和宏	二・二	上伊那
大御食神社	宮司	白鳥　俊明	四・一	上伊那
大御食神社	禰宜	白鳥　操子	六・一	上伊那
本務替				
村上神社（酒玉神社より）	宮司	竹内　忠男	四・一	更埴
村上神社（酒玉神社より）	禰宜	竹内千代隆	四・一	更埴
新任				
穂高神社	権禰宜	小池　高弘	四・一	南安曇
豊岡神社	禰宜	富岡亜璃紗	四・一	上水内
和田神社	禰宜	森井　美樹	六・一	松塩筑
神明社	禰宜	平沢　徹	六・二十	飯伊
辞職				
諏訪神社	兼宮司	青柳　秀和	十二・三十一	南安曇
大御食神社	兼宮司	富岡　武彦	三・三十一	上伊那
八幡宮	兼宮司	等々力　満	三・三十一	南安曇
神明社	兼宮司	等々力　満	三・三十一	南安曇
飯綱社	兼宮司	等々力　満	三・三十一	南安曇
八幡宮	兼宮司	等々力　満	三・三十一	南安曇
酒玉神社	兼禰宜	竹内　忠男	三・三十一	更埴
寶照神社	兼宮司	竹内　忠男	三・三十一	更埴
寶照神社	兼宮司	竹内　忠男	三・三十一	更埴
宇佐八幡宮	兼宮司	竹内　忠男	三・三十一	更埴
養蚕社	兼宮司	竹内　忠男	三・三十一	更埴
酒玉神社	兼禰宜	竹内千代隆	三・三十一	更埴
寶照神社	兼禰宜	竹内千代隆	三・三十一	更埴
宇佐八幡宮	兼禰宜	竹内千代隆	三・三十一	更埴
養蚕社	兼禰宜	竹内千代隆	三・三十一	更埴
諏訪社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
伊勢社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
金箱神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
水内坐一元神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
諏訪神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
村山神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
富建千引神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
中俣神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
古野神社	兼宮司	長沼　忠行	三・三十一	長野
豊國神社	本　禰宜	望月　俊仁	五・三十一	下高井
高杜神社	兼宮司	望月　厳穂	五・三十一	下高井
三郷神社	兼宮司	金田　末弘	六・十九	飯伊
退職				
諏訪社	宮司	青柳　秀和	十二・三十一	南安曇
若一王子神社	権禰宜	室川　静佳	一・三十一	大北
北原神社	禰宜	樋口　洋一	一・三十一	飯水
八幡社	宮司	等々力　満	三・三十一	南安曇
帰幽　謹んで御霊の安らかなることをお祈りいたします				
奉務神社　職名	階位・身分	氏名	帰幽日	支部名
皇足穂命神社諏訪社（合殿名誉宮司）	正階・二級	宮下　俊三	三・四	上水内
御嶽神社名誉宮司	浄階・一級	滝　重則	五・六	木曽

令和元年度長野県神社庁歳入歳出予算書

歳入の部　（単位：円）

款	科目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	740,000	750,000	△10,000	神社本庁より
2	交付金	98,548,000	100,138,000	△1,590,000	本庁交付金
3	負担金	34,170,000	34,100,000	70,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	6,000,000	6,220,000	△220,000	特別協賛金、寄付金
5	財産収入	500,000	500,000	0	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	2,920,000	2,920,000	0	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	2,500,000	2,500,000	0	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	700,000	700,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	200,000	200,000	0	
11	繰入金	0	2,000,000	△2,000,000	（新庁舎建設予備資金庁舎管理運営特別資金より繰入）
12	繰越金	14,602,000	8,852,000	5,750,000	
	合計	161,000,000	159,000,000	2,000,000	

歳出の部　（単位：円）

款	費目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	46,611,763	47,391,842	△780,079	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	8,700,000	8,700,000	0	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会議費	5,400,000	4,500,000	900,000	会議旅費、諸費
4	庁務費	43,268,000	42,220,000	1,048,000	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	25,277,688	25,619,160	△341,472	神社本庁へ
6	事業費	16,900,000	16,900,000	0	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	200,000	200,000	0	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	660,000	660,000	0	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	3,400,000	3,400,000	0	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	3,500,000	3,500,000	0	基本金積立金、役職員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設調査費	1,600,000	2,000,000	△400,000	新庁舎建設特別委員会　会議費・調査諸費等
13	予備費	5,432,549	3,858,998	1,573,551	
	合計	161,000,000	159,000,000	2,000,000	

令和元年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出予算書

歳入の部　（単位：円）

	科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,315,000	3,345,000	△30,000	支部負担金、神職掛金
2	災害救助慰藉特別会計交付金	700,000	700,000	0	神社庁、総代会
3	本庁見舞金	150,000	150,000	0	
4	雑収入	1,000	1,000	0	雑収入
5	繰越金	5,834,000	5,804,000	30,000	
	合計	10,000,000	10,000,000	0	

歳出の部　（単位：円）

	費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	3,685,000	3,685,000	0	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,115,000	2,145,000	△30,000	神職掛金積立金
3	本庁災害慰藉費	300,000	300,000	0	災害対策資金
4	運営費	60,000	60,000	0	事務費、旅費、雑費
5	予備費	3,840,000	3,810,000	30,000	
	合計	10,000,000	10,000,000	0	

暑中見舞

諏訪大社

上田市下之郷中池西七〇一
生島足島神社
宮司　宮川清彦
氏子総代表　松澤繁樹
職員総代一同

戸隠神社
名誉宮司　藤井茂信
宮司　水野邦樹
他　職員一同

穂高神社
名誉宮司　小平弘起
宮司　穂高光雄
職員一同

松本市美須々六番一号
長野縣護國神社
宮司　奥谷一文
他　職員一同

松本市
四柱神社
宮司　宮坂信廣
他　職員一同
http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira

深志神社
宮司　遠藤久芳
他　職員一同

諏訪市茶臼山鎮座
手長神社
宮司　宮坂清

武水別神社
宮司　堀内潔人
他　職員一同

若一王子神社
宮司　竹内直彦
大町市大字大町二〇九七

木曽総社
御嶽神社
宮司　武居哲也

木曽御嶽王滝
御嶽神社
宮司　滝和人

軽井沢町峠鎮座
熊野皇大（こうたい）神社
宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　土屋一人

飯田市浜井町
破魔射場鎮座
冨士山稲荷神社
宮司　市原貴美雄
職員総代一同

佐久総社
新海三社神社
宮司　井出行則
総代長　丸山勝雄
佐久市田口鎮座

軽井沢町旧軽井沢鎮座
諏訪神社
宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　大谷次司

軽井沢町中軽井沢鎮座
延喜式内社
長倉神社
宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　土屋斉司

上田市常田鎮座
総社大宮
科野大宮社
宮司　今井正昭
総代会長　宮下憲治

上田市中央北鎮座
眞田三代崇敬社
大星神社
宮司　関口守和
祢宜　工藤康高
総代長　山口好美

飯山市小菅の里鎮座
小菅神社
宮司　鷲尾隆男
総代会長　吉原一男

暑中見舞

上伊那郡辰野町
三輪神社
宮司　矢島正稔

上伊那郡飯島町
梅戸神社
宮司　今井泰
祢宜　茅野理也
権祢宜　今井佑

上伊那郡辰野町小野
矢彦神社
宮司　立澤寿江
祢宜　立澤俊輔
総代会長　遠藤守

大御食神社
宮司　白鳥俊明
祢宜　白鳥操子
権祢宜　富岡清彦
総代会長　新井亮男

上伊那郡箕輪町三日町
御射山三社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　毛利元次

木曽郡木曽町福島鎮座
水無神社
宮司　宮田利彦
祢宜　宮田伊織

国選定重要建造物群宿場街
中山道奈良井宿
鎮座
鎮神社
宮司　巣山清人
総代会長　篠原幸延

あづみ野
住吉神社
宮司　飯田泰之
氏子総代会長　丸山富生

松本市梓川梓鎮座
大宮熱田神社
宮司　山田充春

上水内郡小川村小根山鎮座
小川神社
宮司　宮下俊樹
祢宜　太田陽一
総代長　西沢哲朗

七二会鎮座
式内社
守田神社
宮司　矢澤龍一
主任総代　酒井健次
会計　吉澤博樹

木曽郡木曽町開田高原西野
八幡宮
宮司　神田肇
祢宜　毛利ゆき乃

長野市箱清水鎮座
湯福神社
宮司　齋藤安彦
祢宜　齋藤英之
権祢宜　齋藤友加里

長野市東町鎮座
武井神社
宮司　齋藤吉睦

長野市松代町鎮座
象山神社
宮司　瀧澤基
祢宜　瀧澤けい子
権祢宜　瀧澤理恵

岡谷市小井川鎮座
小井川賀茂神社
宮司　有賀寛典

飯田市八幡町一九九九
鳩ヶ嶺八幡宮
（重要文化財誉田別尊神像）
宮司　伊原義雄
総代会長　久保田和平

国宝
仁科神明宮
大町市社宮本
宮司　松井秀吾
氏子総代会長　宮崎栄介

伊那市荒井区
荒井神社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　鈴木正躬

長野市岩石町鎮座
えびすの神
西宮神社
宮司　丸山肇
役員総代一同

暑中見舞

安曇野市穂高有明字宮城
彫刻で名高き裕明門
有明山神社
宮司　山崎佳宏
総代会長　塚田銀稲

箕輪南宮神社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　日岐正明
箕輪町大字中箕輪木下一二五〇〇

塩尻市中西條鎮座
三嶽神社
宮司　宇治橋牧子
祢宜　宇治橋克彦
権祢宜　宇治橋邦彦

塩尻市北小野鎮座
小野神社
宮司　宇治橋淳
祢宜　宇治橋邦彦
総代会長　浅田貞一

松本市村井町
神明宮
宮司　永持はな子
祢宜　宇治橋邦彦
権祢宜　小穴真希

伊那市御園区鎮座
白山社
宮司　伊藤光宣

長野市三輪鎮座
美和神社
宮司　齋藤吉睦
権祢宜　矢澤龍一

駒ヶ根市赤穂鎮座
大宮五十鈴神社
宮司　白鳥俊明
祢宜　白鳥操子
http://isuzujinja.com

長野市大町鎮座
長沼神社
宮司　長沼忠行
祢宜　長沼房子
権祢宜　長沼誠一

上伊那郡南箕輪村
殿村八幡宮
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　山崎一郎

長野市松代町皆神山
熊野出速雄神社
（皆神神社）
宮司　武藤美登

奥州一之宮鹽竈神社御分社
鹽竈神社
宮司　大澤明三
祢宜　大澤節子
総代会長　青木三治

安曇野市豊科南穂高
洲波神社
宮司　宮澤佳廣

飯山市五束鎮座
（国重文若宮八幡社）
健御名方富命彦神別神社
宮司　髙橋勸
祢宜　髙橋穣
権祢宜　髙橋晶
総代会長　大日向一郎

佐久市臼田鎮座
稲荷神社
宮司　伴野健一
総代会長　久義重

木曽郡南木曽町田立鎮座
県無形民俗文化財花馬祭り
五宮神社
宮司　髙橋邦衛

国選定重要建造物群漆職人街
木曽平沢鎮座
諏訪神社
宮司　巣山清人
総代会長　太田幸日児

東筑摩郡筑北村坂北鎮座
無形文化財お田植祭り
刈谷澤神明宮
宮司　山崎洋文
総代会長　神田林政穂

佐久市鎮座
平賀神社
宮司　小間澤肇
祢宜　小間澤貴子
総代会長　高橋登

長野市戸隠鎮座
矢本八幡宮
宮司　宮川和工
祢宜　宮川英士
主任総代　羽田静男

神社本庁と神社庁について

神社本庁は伊勢の神宮を本宗と仰ぎ、全国8万社の神社を包括する組織です。
「祭祀の振興と道義の昂揚を図り、以て大御代の弥栄を祈念し、併せて四海万邦の平安に寄与する」との理念の下、日本の伝統と文化を守り伝えることに努め、次のような活動を行っております。
（本宗とは、伊勢の神宮が格別の御存在であることを示す尊称です）

１．神社神道の宣布
２．祭祀の執行
３．氏子崇敬者の教化育成
４．神宮（本宗）の奉賛と
　　神宮大麻（神宮の御神札）の頒布
５．神職の育成
６．図書の発行頒布
７．その他　神社の興隆を図るために必要な活動

また、包括化にある各神社の宮司以下神職は、神社本庁統理が任命し、辞令を交付いたします。
各都道府県には神社本庁の地方機関としてそれぞれの神社庁が置かれ、神社に関する事務をとり、市や郡に支部を置いて地域の振興をはかるための業務を行います。
長野県神社庁は、県内に17支部を置き、県内2440社を包括しております。
神宮大麻の頒布をはじめとする伊勢の神宮への奉賛活動、神職の養成・任免事務、神職・総代をはじめ神社関係者の研修や大会の実施、功労者の顕彰、神社神道の広報など、多岐にわたる活動を行っています。
四季の祭りを通して、皆様の幸福と社会の発展を祈ることはもとより、地域に根ざした文化活動や青少年の健全育成を行い、信州らしい郷土づくりを目指してきました。
こうした活動をさらに充実させるとともに、神道や神社に関する情報を皆様に解りやすく提供していくことが、これからの務めと考えております。
神社に関するご質問など、お気軽にお問い合わせ下さい。

日本国民の総親神様、伊勢の神宮では、皇大神さまに稔の新穀をお供えして感謝申し上げる「新穀感謝祭」が今年も執り行われます。我が長野県民も此の機会に参列し感謝を申し上げあげるべく献穀参拝団を募集いたしますので、ご近隣お誘い合わせの上多数ご参加下さいます様ご案内申し上げます。

第65回　奉祝 天皇陛下御即位

伊勢神宮 新穀感謝祭

内宮・外宮特別参拝（御垣内参拝）　お神楽奉納（内宮神楽殿）

参拝団募集のご案内

期　日　令和元年 **12/2(月)～3(火)**

旅行代金　**32,500円**　※2人部屋をご希望の方はお1人様6,480円増
●新穀感謝祭初穂料 **6,500円**含む

募集人員　**240名**（最少催行人員80名）

お申込　**長野県神社庁** または **各支部へ**
●申込金**1万円**を添えてお申し込みください
※支部単位でバスを1台ご利用の場合は原則35名以上でお申込ください。

募集締切　**11/1(金)** 但し、満員になり次第締め切らせていただきます。

神宮徴古館

戸田家

【宿泊ホテル】**戸田家** 三重県鳥羽市鳥羽1丁目24-26 TEL0599-25-2500
【利用バス会社】**アルピコ交通**

行程	
12/2(月) 1日目	長野県内各地5:30～8:00頃═(高速道路)═恵那峡SA(全車合流)═名阪関ドライブイン(昼食)═神宮徴古館・農業館・神宮美術館(見学)……皇大神宮別宮 倭姫宮(参拝)═══16:30鳥羽市内
12/3(火) 2日目	ホテル7:50═海産物ショッピング═8:45第65回伊勢神宮新穀感謝祭(外宮・内宮御垣内参拝・お神楽奉納)……岩戸屋(弁当昼食)……神宮会館(式典参加)14:00═══(高速道路)═══19:00～21:30頃 長野県内各地

※食事／朝1回、昼2回(2日目はお弁当)、夕1回(宴会時飲物付)
※現地事情(交通・天候など)により行程の一部が変更となる場合がございます。
※全行程添乗員が同行いたします。

取消料金規定
お申込後お客様の都合でお取消しの場合、以下の取消料を申し受けます。
(旅行開始日の前日から起算)20～8日前▶5,000円、7～2日前▶7,500円、前日▶10,000円、当日▶13,000円、開始後、無連絡不参加▶全額
※その他の事項については、当社「募集型企画旅行約款」によります。

その他
●伊勢神宮は正式参拝ですので男性は背広・ネクタイ着用、女性はそれに準ずる服装でお願いいたします。
●集合時間を記載した「最終行程表」はご出発の1週間前までに代表者の方を通じてお送りいたします。

企画　長野県神社庁 長野市箱清水1-6-1　伊勢神宮崇敬会長野県本部 TEL.026-234-6724 FAX.026-233-2720　後援　長野県神社総代会
旅行企画実施　アルピコ長野トラベル株式会社 TEL.0266-73-1235 営業時間／9:00～17:50（土曜・日曜・祝日は休み）
観光庁長官登録旅行業第669号・(一社)日本旅行業協会正会員・JATA公認　旅行業公正取引協議会会員　諏訪営業所／〒391-0001 茅野市ちの3419-6　総合旅行業務取扱管理者 中島秀一